

おめでとうございます

新年のご挨拶を申し上げます～



長万部町長 木幡 正志

新 年あけましておめでとうございます。

二〇一九年の新春を、町民の皆様とともに迎えられますことを心からお慶び申し上げます。

私は、昨年七月八日に執行されました町長選挙におきまして、町民の皆様から無投票当選という大変名誉あるご審判をいただき、再

び町政の舵取りをさせていただくことになりました。

町民の皆様から寄せられました期待と信頼に誠心誠意お応えするため、町民の生命と財産を守るという信念のもと、町民の皆様の声に耳を傾け、夢と希望を持ち安心して暮らすことができるまちづくりを目指して、決意も新たに町政に取り組

む所存であります。

昨年を振り返りますと、平昌オリンピックでのカーリング女子日本代表の活躍など、明るい話題もありましたが、国内では四月の鳥取県西部地震、六月の大阪府北部地震、そして九月六日に発生した北海道胆振東部地震では多くの尊い命が一瞬のうちに奪われ、北海道全域で停電が発生するブラックアウトを経験するなど、日本各地で自然災害に見舞われた一年でもありました。

幸い本町では人命に関わる大きな災害はありませんでしたが、住民の生命と財産を守るべく責任を持つ自治体として、防災の取組に対する決意を新たにいたしました。

本年は、四月三十日に天皇陛下が退位され、翌五月一日に皇太子さまが即位される節目の年でもあります。三十年間続いた「平成」

の時代は終わりますが、本町にとって節目の年となる二〇三〇年度末には北海道新幹線が札幌まで延伸され、現駅に併設される新幹線長万部駅は道南の広域玄関口となります。このことは、まさに町の未来を大きく変貌させる好機であります。

今後とも町民の皆様と知恵を絞り力を合わせ、新駅を活かしたまちづくりや観光の振興、東京理科大学と本町の連携によるアグリビジネス事業の成功に向けた取組など、本町の明るい未来に向けた諸施策を進めてまいります。

結びに、新年も町民皆様の格段のお力添えを賜りますようお願い申し上げますとともに、今年も皆様方にとりまして、健やかで穏やかな年となりますよう、心からご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

2019年 亥年
年頭のご挨拶

新年あけまして ～町民のみなさまへ謹んで

新

年あけましておめでとう
ございます。

町民の皆さまにおかれましては、輝かしい新春を健やかにお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

また、町政はもとより議会運営に格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年を顧みますと平昌オリンピックでの日本人の活

躍、韓国、北朝鮮の南北首脳会談での朝鮮半島非核化合意、史上初の米朝首脳会談による緊張緩和など明るい話題もありましたが、国内では、昨年の世相を表す漢字に「災」が選ばれました。選んだ理由に北海道胆振東部地震や大阪府北部地震、西日本豪雨や台風、記録的な猛暑などが挙げられ、また、今年、新元号を

迎えることから、災害の被害減少を願う声も多かったと言われています。

幸いにも本町においては、このような大きな災害はありませんでしたが、各地で自然が猛威を振るつた一年でありました。

また、地方自治体を取り巻く環境は、依然として厳しく、特に人口減少が著しい地方にとっては経済情勢も含め、時代の先行きがますます不透明感を増しております。

本町においては、少子高齢化への対応、産業・教育の振興、環境や防災対策、北海道新幹線長万部駅開業に向けてのまちづくりなどの課題が山積みしており、このようなさまざまな課題を抱える中、議会とその議員が果たすべき役割と責任は、ますます増大してきております。

議会におきましては、特別委員会において「開かれた議会」「身近な議会」を目指し、各種団体との意見交

換会の開催や議会開催周知チラシの配布、ホームページでの会議録の公開、傍聴手続きの緩和、会派制度の廃止など、少しずつではありますが改革を進めてきました。

また、新幹線駅周辺整備状況の視察を行うなど調査研究にも取り組んできたところでもあります。

私も議会議員も今年四月で任期満了となり、地方統一選挙を控え、慌ただしい年になるものと思われませんが、議員としての役割と責任の重さを自覚し、町民の福祉向上と安全・安心して住むことができるまちづくりに全力を尽くして参りますので、今後ともご指導ご鞭撻賜りますよう、心からお願い申し上げます。

結びに、町民の皆様にとりまして、本年がより実りある飛躍の年となりますよう心からご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。



長万部町議会議長
辻 義雄